



状況を把握できているものについては「○」「△」「×」のいずれかの評価を記入
把握できていないものについては「-」を記入

記入者

主体	構成要素		評価上の視点	評価基準					現時点の評価(月/日)				評価の根拠	目指す状態	アクション (いつ、誰と、何を)
	カテゴリー	確認事項		-	×	△	○	◎	/	/	/	/			
支援者	地域状況の把握	1 地域キーパーソンとの関係構築	自治会役員、地域活動の推進役(民生委員、消防団、郷土芸能など)	状況把握に着手していない	着手しているがキーパーソンを把握できていない	キーパーソンを把握できている	キーパーソンと必要に応じたコミュニケーションが取れる関係ができている	キーパーソンとの信頼関係のもとに戦略的な取り組みができている							
		2 コミュニティ形成上の論点・課題の把握	自走化を目指す上で、地域内で共通見解となっているボトルネックは何か	状況把握に着手していない	着手しているが状況が把握できていない	状況を把握し始めた	キーパーソンを通じて論点・課題を把握できている	裏付けとなる一般住民の認識も把握した上で論点・課題を整理できている							
	地域資源の把握	3 活用すべきハード資源と機能の把握	災害公営住宅集会所、地区公民館、番屋、道の駅、個人店舗等	状況把握に着手していない	コミュニティ内で活用すべきハード資源を把握していない	コミュニティ内で活用すべきハード資源を把握し始めた	ハード資源をその機能・目的も含めて把握できている	ハード資源の利活用上の課題も含めて把握できている							
		4 活用すべきソフト資源と機能の把握	地場産業、祭り、伝統行事等	状況把握に着手していない	コミュニティ内で活用すべきソフト資源を把握していない	コミュニティ内で活用すべきソフト資源を把握し始めた	ソフト資源をその機能・目的も含めて把握できている	ソフト資源の利活用上の課題も含めて把握できている							
	ステークホルダー	5 外部支援者の特定、および関係構築	他の支援団体等と地域状況について情報交換をし、課題解決に向けて協働できているか	状況把握に着手していない	地域で活動する外部支援者がいない	外部支援者が特定できているが、コミュニティの情報は共有できていない	外部支援者が特定できおり、コミュニティの情報は共有できている	外部支援者と良好な協働関係が築けていて、打ち手が議論できている							
地域	コミュニティと行政の関係	6	行政の担当部署と地域状況について情報共有をし、課題解決に向けて連携できているか	状況把握に着手していない	行政の各部署の役割を把握できていない	担当部署を把握しているが、コミュニティの情報は共有できていない	担当部署を把握し情報共有がされているが、相談には支援者のサポートが必要	自治会主体で行政とコミュニケーションを取り、課題解決に向けて連携している							
		7 自治会の事務局体制の整備	役員・規約・定例会議・会計・総会等	状況把握に着手していない	事務局体制が整備されていない	事務局体制が整備されているが、一部の役員で運営が賄われている	事務局体制が整備され、役員がそれぞれの役割を果たしている	会議体が議論・承認の場として機能している							
	8 自治会の代表性	団地自治会が住民の代表性を有している、または地域の既存自治会の一翼を担っているか	状況把握に着手していない	自治会の活動が住民からの賛同を得られていない	自治会は住民からの意見を取り入れる努力をしている	住民間で、自治会は民意を反映していると認識されている(組織内の代表性)	地域や行政など対外的にも、自治会は民意を反映していると認識されている								
	9 組織の多様性	女性や若者等の意見を反映する場・機会があるか	状況把握に着手していない	女性や若者等の意見が取り入れられていない	女性や若者等の意見を取り入れ始めた	女性や若者等の意見を取り入れる仕組みがある(役員登用・分科会設置等)	女性や若者等の意見を取り入れ、将来に向けた話し合いができている								
	10 潜在的リスクを抱えている人物の把握	見守り予備軍、トラブルメーカーの把握と緊急時対応などの対応が団地や地域内でできているか	状況把握に着手していない	把握する意識がまだ醸成されていない	一部の人のみが把握できているが共有されていない	団地・地域内で把握・共有できている	団地・地域と支援者間で共有され、対応する仕組みが構築されている								
住民による自発的な活動	コミュニティ内で情報を共有する仕組み	11	チラシの配布等、情報を伝達・共有する体制が整い、住民に訴求できているか	状況把握に着手していない	コミュニティ内で情報を共有する仕組みがない	コミュニティ内で情報を共有する仕組みづくりを始めている	コミュニティ内で情報を共有する仕組みがあるが、支援者のサポートが必要	情報共有の仕組みを、支援者のサポートなしで自主運用できている							
		12 持続可能性	地域の自主的な活動が年間計画に沿って、適切な規模で行われているか	状況把握に着手していない	自発的な活動への取り組みがない	自発的な活動がみられるが、単発的な取り組みで終わっている	自発的な活動を継続的に実施しているが、企画運営のサポートが必要	支援者のサポートなしで企画運営できているが、持続的に行えている							
	13 資金・リソースの獲得	リソース(資金・運営人材)の獲得	状況把握に着手していない	リソース獲得に向けて取り組めていない	行政や支援者に相談できているが、申請手続等において自発的に動けていない	適切な時機に、自発的に行動できている	自分たちで十分なリソースを獲得し安定して維持できている								
	14 参加者の巻き込み	地域活動活性化の上で、行事に巻き込みたい対象者を特定し参加を促せているか	状況把握に着手していない	積極的に参加を促すべき対象者(親子、男性など)を特定できていない	参加を促すべき対象者が特定できている	対象者を特定し、個別に声かけできている	特定した対象者が参加している								
	15 項目5、6で特定された地域資源の活用	地域内の資源とその機能を有効に活用できているか	状況把握に着手していない	地域資源を活用できていない	地域資源を把握・活用する支援者頼みで、住民主体で活用されていない	地域資源を住民主体で活用しているが、利活用が一部の人のみに限られる	地域資源を活用している住民の属性が広がっている								
中長期ビジョン	16 3年程度で目指す目標の決定	目指したいコミュニティ像の共通ビジョンがあるか(見守り、伝統や産業の再興など)	状況把握に着手していない	大枠の方向性も固まっていない	話し合いの場がある	ビジョンは共有できている	目標が決定している								



状況を把握できているものについては「◎」「○」「△」のいずれかの評価を記入、把握できていないものについては「-」を記入

カテゴリー	確認事項	考え方・視点	推進役となる部署・団体	評価基準				現時点の評価(月/日)				評価の根拠	アクション
				-	△	○	◎	/	/	/	/		
課題把握	1 入居(予定)者の把握	入居者の特性や生活課題を把握し、地域に融合する上での潜在的リスクを想定する。入居辞退が出る可能性をはかる上でも重要	(誰が主導するか)	把握に着手していない	情報を把握できている	情報を把握したうえで課題に応じた支援団体・部署につなげている	地域のキーパーソン(町内会役員や民生委員)にも入居者の情報が共有できている						(いつ、誰と、何を)
	2 地域への説明機会	災害公営住宅の概要と工期等の進捗を地域住民に共有することで、地域側の懸念を払拭するとともに潜在的課題が特定できる		情報を提供できていない	チラシ告知などで最低限の情報提供はできている	地域住民向け説明会を開き、住民との意見交換が実施されている	説明会後も進捗状況が地域の町内会役員に共有されている						
	3 地域の受入れ姿勢(課題・意向)の把握	地理的な条件だけでなく、町内会の自治力など地域側の特性に応じて、総合的判断で融合方針を検討できていることが重要		受入れ姿勢を把握できていない	受入れ姿勢は把握しているが、融合方針が定まっていない	把握した上で、融合の方針が定まっている	方針について地域側とも合意できている						
打ち手の決定	4 横断的・包括的な検討の場	行政と現場の関係者が共通認識を持つことで、役割分担をしながら適切に手を打つことができるようになる		検討の場の設定に着手していない・情報共有がほとんどされていない	一部の関係者間でのみ情報共有がされている	関係団体が定期的に検討の場を持ち、方針を議論できている	課題解決に向けた打ち手を考え、役割分担に沿って行動できている						
住民意識の醸成	5 入居(予定)者間の交流機会	入居(予定)者同士の関係強化により、新しい環境で生活するイメージを入居前から持てるようになる。入居辞退数の軽減にも有効		機会を提供できていない	入居前または入居後に実施したが参加率が70%に満たない	入居後(3ヶ月以内目安)に実施し、参加率が70%を超えている	入居前(半年前目安)と入居後(3ヶ月以内目安)に実施し、参加率が70%を超えている						
	6 入居住民と地域の交流機会	入居住民が地域の情報を得られることが、地域融合の入口となる。最終的には双方の集いに垣根を超えて参加できていることを目指す		機会を提供できていない	地域の町内会の仕組みや活動を知る機会を提供できている(戸別訪問、ポスティングなどを含む)	地域のキーパーソン(町内会役員、民生委員など)と顔合わせする機会を提供できている	地域のイベントに入居者が、または入居者のイベントに地域住民が参加できている						
コミュニティ形成支援の持続性	7 団地側の窓口	特に団地内で町内会や班の境界が分かれる場合、窓口的存在が一元化されていることが、団地単位で発生する課題を解決する上で有効		役職者を含め、入居住民の中に適任者を見つけれられていない	適任者は見つかったが、窓口機能は果たせていない	窓口機能を果たす住民がいるが、仕組み化されていない	仕組みの中で窓口機能が果たされている						
	8 住民活動	資源(施設、外部支援者、補助金など)を活用して多様な住民が自発的な活動を行うことで、住民同士でゆるやかな見守りができる		住民が支援者頼みになっている	特定の住民による自発的な活動はあるが、資源を活用していない	特定の住民が資源を活用した活動を行っている	住民が自発的に資源を活用し、多様な住民が参加している						
	9 平時の行政部署	団地情報が復興後の担当部署(行政区や福祉系の担当課)に引き継がれることで、中長期的なセーフティネットを担保できる		平時(R3年度以降)の体制が定まっていない	復興期の部署がコミュニティ形成を推進しているが、平時の行政部署は関わっていない	平時体制の部署と進捗状況や課題の共有が行われている	平時を視野に入れた体制で臨み、課題解決に向けて協働できている						